

**広島空港初、空港内作業車両で
バイオディーゼル燃料「B100燃料」の運用を開始します**

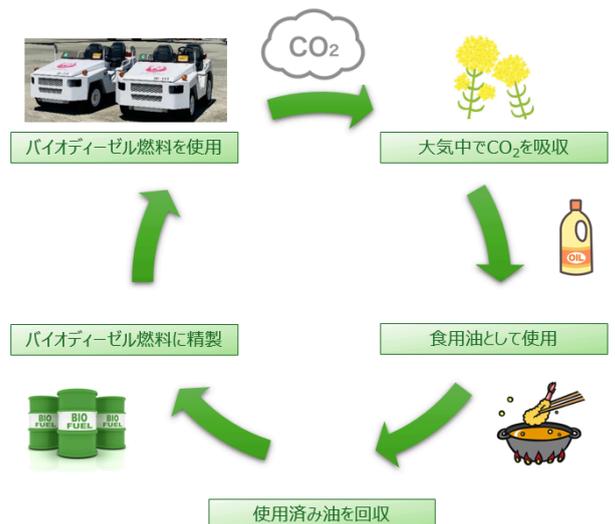


JALグループは、CO₂排出量削減に向けた取り組みの一環として、2026年3月13日(金)より、広島空港配備の空港内作業車両であるトーイングトラクター(*1)に、バイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」の運用を開始します。

(*1)空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナをけん引する車両。広島空港に配備するトーイングトラクターのうち2台にB100燃料を搭載する。

「バイオディーゼル燃料」は植物由来の廃食用油から精製しており、原油の植物が成長過程でCO₂を吸収していることから、ライフサイクルでのCO₂排出量を実質ゼロにすることができます。また、家庭や地域の飲食店などで排出される廃食用油などを精製として地域で使用することから、地産地消の循環型エネルギーであり、軽油と比べて1リットルあたり約2.62kgのCO₂排出量削減の効果が見込めます。

なお、実施に当たっては、植田油脂株式会社(大阪府大東市)が「B100燃料」の製造・供給を、広電エアサポート株式会社(広島県広島市)が給油を担当します。



※CO₂循環イメージ図

JALはこの循環型エネルギーの利用を通じて地域や社会と連携、協働して「CO₂排出実質ゼロ」実現のために、持続可能なエネルギー利用によるCO₂排出削減に取り組んでまいります。

以上